

第4回 飯山市保育園・学校課題検討委員会会議次第

日時：平成29年11月15日(水)午後6時30分

場所：飯山市役所4階全員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1)飯山市保育園の今後のありかたについて

(2) その他

4 その他

飯山市保育園の今後のあり方について

飯山市教育委員会

1 飯山市保育園の現状

- 過疎化・少子化等により、就学前児童も年々減少し、それに伴い園児数・保育所数も年々減少している。平成29年度にはしらかば保育園が休園となり、また市街地の保育園においても、園児のいないクラスが出てきている
- 子ども・子育て新制度に伴い、飯山市においても平成27年度より保育の拡大を行った・土曜1日保育、休日保育、公立保育園での満1歳からの受け入れ、11時間保育の実施
- 核家族化や共働き世帯の増により保育園への入園率は増えており、特に3歳未満児の入園が年々増化している

2 飯山市保育園の課題

- 園児数の減少により、公立8園中4園の3歳以上児クラスで混合保育を実施。またクラスの園児数も少なくなっており、10人以下のクラス（学齢）も増えている
- 3歳未満児の入所増、保育の拡大等により保育士が不足している
- 公立保育園、私立保育園とも施設の老朽化が進行しており、また公立保育園においては、3歳未満児の増加に対し施設が対応できていない

3 飯山市の子どもたちにとっての望ましい保育環境

(1) 望ましいクラス分け、園児数

新保育所保育指針において3歳以上児については、「この時期の保育においては、個の成長と集団としての活動の充実が図られるようにしなければならない」とされており、そのためには一定規模のクラス人数が望ましいと考えます。

また、保育士の配置基準を大きく下回るような少人数のクラスでも保育士は最低1名必要であり、保育士が不足している状況のなかで、保育の質の低下や待機児童が発生する恐れがあることから、一定規模以上のクラス人数としていく必要があります。

混合保育については、園児にとってメリット・デメリットの両面がありますが、発達等を考慮した場合、年齢別保育を原則としたい。

3歳未満児については、児童数は年々減少しているものの保育園への入所率は増えています。3歳未満児は年齢による発達の差が大きく、できる限り年齢別にクラス分けをすることが望ましいと考えます。

(2) 適正配置

現在、飯山地区を除き公立保育園は、各小学校区に1園となっており、保育園から小学校への接続や通園距離、地域の子育て支援としての役割等も考えると原則小学校区に1保育園が当面望ましいと考えます。

(3) 施設整備

公立保育園については老朽化が進んでおり、今後10年以内に※耐用年数を超える園が5園あります。また未満児の年齢別保育に対応できる施設は無く、3歳未満児の多い園では空いている保育室を暫定的に未満児室として使用している状況で、今後施設整備を進めていく必要があります。

(※耐用年数＝「財務省の原価償却資産の耐用年数に関する省令」に基づくもので、耐用年数が経過した建物が使用できなくなるということではありません。【参考】鉄骨造りの耐用年数38年)

4 具体的な方向性

(1) 飯山地区の方向

飯山地区には、現在公立保育園2園、私立保育園1園、私立幼稚園1園があります。また公立保育園の園児はほぼ飯山地区の児童ですが、私立保育園・幼稚園には他の地区から通園している園児も多くいます。

しかし、いずれの園においても園児数は年々減少しており、推計では10年後の平成39年度には飯山地区の保育園児は100名を切る可能性があり、規模的には保育園1園が適正規模となる状況です。(別添資料)

また既に、公立保育園では3歳以上児のほとんどのクラスが10名以下となっており、今後継続して混合保育が必要な状況となっています。

しかし飯山地区での1園化は、現保育園での定員数、私立保育園との関係、保育園の位置、用地の確保、事業費の確保等から数年以内での実施は難しい状況です。

当面の対応として、まずは公立保育園を統合し、その後実際の園児数の推移を見ながら検討することとします。

具体案

概ね3年の間に、飯山地区の公立保育園は「しろやま保育園」1園とする。

【理由】

しろやま保育園は昭和47年建設で老朽化が進んでいるものの、平成11年に耐震改修、平成24年に大規模改修を行っており、また元々施設定員150人として建設しており、保育室は5室あり、園庭等の敷地も一定の広さがあります。

また、子育て支援センターとして使用している部屋(元のしろやま保育園未満児室)は来年度完成の(仮称)飯山市子ども館へ支援センターが移転することにより空き部屋となり、隣接の事務室等を含め未満児保育室として改修することにより、未満児の保育環境の改善を図ることができます。

一方あきは保育園については、施設は平成9年度の建設で比較的新しいものの、45名定員で建設しており保育室は4部屋しかなく、敷地も狭いため増築は困難です。

(2) 全市的な方向

園児数が極端に少ない場合、園児の発達や適性な保育実施の点から複数の小学校区にまたがる保育園の集約も今後検討が必要と思われます。

当面、公立保育園は各小学校区1園としますが、今後の小学校・中学校のあり方の検討や園児数の推移をみながら検討していくものとします。

資料 保育園現場からの現状把握

* 混合クラス保育におけるメリット・デメリット

	メ リ ッ ト	デ メ リ ッ ト
以上児混合 [5歳児 4歳児 4歳児 3歳児	・自然な交流があり、小さい子を思いやる姿や大きい子に憧れる姿がある。 ・優しくされた事を年下の子に返している。 ・小人数では経験できない集団遊びが経験できる。遊びのモデルがあり挑戦する。 ・伝承あそびに早い年齢から触れる。 ・年長児に規範意識が持てる。 ・	・活動内容が、多人数の方に寄ってしまう。 ・小さい子が『してもらう事』多く、困難さに弱い姿がある。 ・就学前活動では別行動になるので4歳児に配慮が必要。年齢別保育と混合保育のバランスが求められる。 ・年齢に合った活動が経験しにくい。背伸びする活動に疲れる子もいる。
未満児混合 [0歳児 1歳児	・成長発達の過程がわかり、保護者や保育士も見通しを持ちやすい。 ・複数担任なので各ポイントで見守りができる。 ・遊びや生活のモデルがあり、模倣遊びや手洗い、トイレトレーニングなど発達が自然に促される。	・発達に合った玩具やスペースの確保が難しい。 ・0歳児の安全管理に適した備品、衛生的な環境が少ない。 ・どうしても歩行の完了しない子に多くの配慮が必要となり、2歳の心情は複雑。 ・本人に合った生活リズムの保障が難しい。

* 3歳以上児における少人数クラスのメリット・デメリット

	メ リ ッ ト	デ メ リ ッ ト
3歳児	・一人ひとりにきめの細かい配慮ができる。 ・保護者とのコミュニケーションがとりやすい。 ・待つ時間が少ない。 ・個々の発達差に合わせて、活動時間にゆとりを持ってできる。	・気の合う友だちが出来にくい。 ・我慢や協調性が育てにくい。 ・集団遊びやゲームがすぐ終わり発展しにくい。
4歳児 5歳児	・一人ひとりにきめの細かい配慮ができる。 ・保護者とのコミュニケーションがとりやすい。 ・交流保育や異年齢保育の機会が多く、他園の子と関わるなど様々な関わりを経験する。	・人間関係や集団生活の学びが実体験から学べない。 ・子ども同士関わりによる刺激が少ない。 ・保育士との親密な関係が生まれやすく、依存的な子や家庭がでてくる。 ・友だち関係が固定化してしまう。